



IAIA
International Association
for Impact Assessment

代替案検討は健全な意思決定に不可欠なものであり、効果的なEIAの本質である

著者

Júlio de Jesus
With input from
Charlotte Bingham
Peter Croal
Richard Fuggle

(和訳)浦郷昭子

FASTIPS

No. 11 | November 2015

プロジェクトEIAの代替案 Alternatives in Project EIA

EIAは意思決定を支援するツールである—もし、他に選択肢がない場合、意思決定の意味はない。代替案の検討は健全な意思決定の神髄である。代替案の検討は、公衆参加を促し透明性を向上させるため、意思決定の説明責任をより良いものにする。すなわち、代替案検討はより良いガバナンスと持続可能性実現のため、重要な作業である。

代替案の発案は複雑なプロセスであり、技術チームによる小さな意思決定から、事業者や監督機関による大きな意思決定まで様々なものがある。

国のEIAシステムを初めて適用した合衆国国家環境政策(The United States National Environmental Policy)は、代替案を「影響評価書(environmental impact statement: EIS)の本質である」としている。今日、ほぼすべてのEIAシステムは代替案検討に関する何らかの規定が存在する。

EIAベストプラクティスの国際原則(IAIA/IEA, 1999)によると、EIAの基本原則には「EIAはシステムティックであるべき」で、「そのプロセスでは、提案された代替案が環境に及ぼす影響の情報を十分に検討すべきである」と記されている。さらにEIAの実務原則では「EIAのプロセスでは、代替案の検討を示すべきである—代替案には、事業の目的を満たす当初の案、最も環境にやさしい案、中間的な案などを立案する。

Fastipで述べられている代替案に関する考えは、EIAに限定しない。これは、社会、文化遺産、景観など多阿野形態の事業IAに適用できる。

知るべき重要な五つのこと

1. 事業EIAの代替案は、目的を満たす範囲内での似たような技術的特徴や機能の検討が必要である。代替案は、異なる立地、大きさ、技術、デザイン、工程や運営手順など様々なものがある。代替案検討プロセスでは、目標を達成するための様々な道筋を検討すべきである(例:水力発電事業の代替案として、電力輸入や風力発電がある)。事業EIAには、事業前段階の戦略的レベルでの代替案検討結果や、実施済みの戦略的環境アセスメントの結果を記載すべきである。
2. 代替案の十分な検討には、問題に対する十分な理解が必要であり、様々な項目(環境面、社会面、技術面、経済面、制度面、規制面)の実現可能性について評価する必要がある。
3. 何もしないという代替案(ゼロオプション)も検討のひとつに入れるべきであるが、現実的な代替案となりえない場合は、ゼロオプションを過度に強調すべきでない。ゼロオプションは、ベースライン(もしくは現状)と同じではない。ゼロオプションは、事業を行わなかった場合の将来の状態だが、他の承認された事業や合理的に想定できる将来の状況など、ベースラインの変化も考慮すべきである。
4. 代替案検討は、EIAのスクーピング段階で行うべきである。代替案の発案と評価は、影響を受ける人々、その他ステークホルダーの参加型で行わなければならない。EIAの前の段階で代替案を検討を行った報告書(立地選定、マスタープラン、SEAなどの報告書)の情報は、スクーピング時に活用すること。
5. 代替案の評価手法として多基準分析(multi-criteria analysis)などを用いる場合は、高い透明性を持ち参加型で行うこと(例えば、ステークホルダーは比較項目の選定や重みづけに加わるべきである)

さらに知りたいですか?

www.iaia.org/fasttips.php

IAIA.org > Resources > Publications > FasTips

実行すべき5つの重要なこと

1. 代替案立案の際は、積極的にクリエイティブになるべきで、案の実現可能性を考慮しつつ、環境影響や社会影響も考える。事業者と規制機関にはゼロオプションと主な代替案の限界を見極めるよう促す。多すぎる数の代替案の立案は避け、効果の小さい案は検討すべきでない。
2. EIAのスクーピング段階に行う代替案立案と選定のプロセスには、影響を受けるコミュニティと他のステークホルダーに関わってもらうこと。
3. 事業者や規制機関の望む代替案を正当化するための偽の代替案を含めるべきではない。
4. 代替案評価に適用する手法は、透明性高く参加型で用いること。
5. 代替案立案のプロセスと事業開発の各段階でこれまで検討されてきた代替案の双方について、EIAレポートに記載することで、プロセス全体の説明をおこなうこと。

さらに深く知るために読むべきもの

Canter, L. (1996) Environmental Impact Assessment, 2nd Ed., New York: McGraw-Hill (Chapter 15: "Decision Methods for Evaluation of Alternatives").
Council on Environmental Quality (1978) "Regulations for implementing the procedural provisions of the National Policy Act." Code of Federal Regulations, pp 1500-1508.
Jones, C.E. (1999) "Screening, Scoping and Consideration of Alternatives" in Petts, J. (Ed.)
Handbook of Environmental Impact Assessment. Oxford: Blackwell Science, Vol. 1, Chapter 10: 201-228.

FasTipに対する意見や別のトピックに対する提案はありますか? FasTipsシリーズの編集者であるマリア・パチダリオ(mpartidario@gmail.com)に連絡してください。

TasTipsのタスクフォース: Maria Partidário (Chair), Charlotte Bingham, Peter Croal, Lea den Broeder, Richard Fuggle, Raphael Mwalyosi, Julia Nowacki.